

4 沿海部（中心市街地・港湾地域）

港湾・流通施設，商業施設，レクリエーション施設，文化施設や集合住宅など，多様な機能が高度に集積した地域です。アイランドシティ，香椎パークポート，箱崎ふ頭，東浜ふ頭，博多ふ頭，中央ふ頭，長浜などの港湾地区，千早，馬出，天神，地行，百道，西新，姪浜などに特徴づけられます。

これらの地域では，事業の実施により発生する大気，水質などへの環境負荷を低減し，公害を発生させないように留意する必要があります。また，ヒートアイランド現象の軽減や生物の生息・生育環境の創出につながるみどりや水辺の整備では，周辺の資源とのネットワーク効果を勘案しながら検討する必要があります。

《求められる環境の例》

- ・2020年代に人口のピークを迎えたのを契機に市街地がコンパクトに集積され，市街地や港湾地域の中にあり，利用がなされてこなかった土地には，まとまった緑地が創出・育成されている
- ・公共交通機関の発達や自家用車の減少などによって交通機能に余裕のできた道路には，厚みのある植樹帯が適正に維持管理され，市街地を流れる河川沿いにも緑地が連続して形成され，公共施設だけでなく，商業・業務ビルの屋上や壁面にも緑化がなされている
- ・これにより生態系ネットワークが形成され，シジュウカラやコゲラ等の野鳥をはじめ，多くの生物を見ることができる
- ・こうした緑が「風の道」として機能して，ヒートアイランド現象の緩和に寄与するとともに，風格と潤いのある都市景観を形成している
- ・人々が身近に生き物とふれあうことができるビオトープが市街地に多くつくられ，子どもや大人たちがそうした場所の維持管理を自ら行うことで，生物の多様性の大切さや自然とのつきあい方などを学んでいる


※「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋



写真 沿海部（中心市街地・港湾地域）

沿海部(中心市街地・港湾地域)の環境配慮の要点

環境配慮の対象とする環境要素	環境配慮の要点
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	排水による水質汚濁、幹線道路沿線での大気汚染、騒音・振動などの公害発生防止に努めてください。また、ヒートアイランド現象緩和のため風の道を確保するなど、建築物の配置を検討してください。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	多々良川河口(東区)、室見川河口(西区)は、シギ・チドリ類などの渡り鳥やシロウオを始めとする貴重・希少生物の重要な生息環境となっています。河口域の保全のほか、海域と河川域を行き来する種の水域の連続性に配慮してください。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	海浜の人工緑地、屋上緑化や街路の緑、河川沿いの水辺空間等を利用して、生物の生息空間の創出、生態系ネットワークの形成、人の安らぎの場の形成に配慮してください。
環境への負荷の低減	廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用のほか、再生可能エネルギーの利用、省エネルギー施設・燃料電池・雨水利用施設の導入等を検討してください。

地域特性	
●自然的条件	
地形等	主に東区、博多区、中央区、早良区、西区に分布する。 博多湾に面した埋立による造成地が大半を占める。福浜、地行浜、百道浜、愛宕浜には、人工海浜が整備されている。 人工的な環境に隣接して、室見川河口には約26haの砂質の河口干潟が、多々良川河口には約32haの砂泥質の河口干潟が発達している。
植生	埋立による造成地がほとんどであり、植樹された樹木以外は路傍雑草が見られるのみである。 アイランドシティ中央公園、シーサイドももち海浜公園では、計画的な緑化が進められており、周辺緑地との緑のネットワークの形成が図られている。
生物多様性	沿海部(中心市街地・港湾地域)を特徴づける貴重・希少生物は、「河川河口部と河口干潟」に生息することが多い。 <沿海部(中心市街地・港湾地域)を特徴づける貴重・希少生物> 鳥類：シギ・チドリ類、ガン・カモ類 [多々良川河口、室見川河口]、コアジサシ 魚類：シロウオ [室見川河口] 昆虫類：ヨドシロヘリハンミョウ [多々良川河口] 甲殻類その他：ハクセンシオマネキ [多々良川河口] シロウオのように海域と河川域を行き来する種への配慮には、遡上時期や水域の連続性を考慮する必要がある。 <div style="text-align: center;">  <p>コアジサシ</p> </div>

●社会的条件	
生活環境	幹線道路の沿線では自動車交通による沿道大気汚染、騒音・振動の発生影響が見られる。ヒートアイランド現象が確認されており、海からの風の道を確保するように建物・緑地を配置することなどが期待されている。 博多湾の奥部に位置する博多漁港は、中央卸売市場を併設し、まき網漁業・沿岸漁業の水揚げ港としての産地機能と250万人都市圏の大消費地を抱えた消費地機能を併せ持つ漁港である。
景観・歴史	ベイサイドプレイス博多埠頭、マリンメッセ福岡、ヤフオクドームなどウォーターフロントの整備が行われるとともに、港湾施設の集積が進み、港の活気にあふれる機能的な景観が形成されている。 東区筥松、西区小戸の海岸には元寇防塁の遺構が残されており、国の文化財に指定されている。名島城址公園やアイランドシティ中央公園などの大規模緑地、小さな緑地や街路の緑、那珂川河川沿い水辺空間などが貴重な安らぎの場となっている。
その他	国外との物流の拠点となる施設が多く、セアカゴケグモなどの侵略的外来生物の侵入経路の一つとなっている可能性がある。
環境配慮事項	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	
周辺環境への大気汚染、騒音や振動、車両の走行による渋滞の助長対策	<input type="checkbox"/> 沿道に遮音壁を設置する。 <input type="checkbox"/> 道路を低騒音舗装にする。 <input type="checkbox"/> 施工規模に見合った低公害型・省エネルギー型の作業機械を導入する。 <input type="checkbox"/> 作業に伴う、騒音・振動、排気ガス、粉じんなどの発生・拡散を極力抑える工法を採用する。 <input type="checkbox"/> 資材等運搬車両、作業機械は、騒音・振動、排気ガス、粉じんの発生を極力抑えた運転を行う。 <input type="checkbox"/> 防音パネル・シートを設置し、施工時の騒音の拡散を抑制する。 <input type="checkbox"/> 工事は休日を避けるほか、工事車両の走行は一般車両の多い時間帯を避ける。
大気汚染や水質汚濁などの公害発生の防止	<input type="checkbox"/> 適切な作業・防じん対策、アスベスト対策、ダイオキシン類対策を実施する。 <input type="checkbox"/> 路面の改良・補修を適宜実施する。 <input type="checkbox"/> 作業機械は良質燃料を使用し、整備点検を適宜行う。 <input type="checkbox"/> 汚水処理施設などによって汚水を適正に処理し、海への流入を抑制する。 <input type="checkbox"/> コンクリート打設時のアルカリ性排水を中和処理する。 <input type="checkbox"/> 施設などにおいて、最新の環境保全設備の導入を図り、環境汚染物質の排出を抑制する。 <input type="checkbox"/> 土置き場への防じんネット・シート、砕石の敷設、散水の実施などによって、粉じん・飛砂の発生・拡散を抑制する。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	
干潟や魚介類などの近海域の生態系への影響の軽減対策	<input type="checkbox"/> 法面や仮施設跡地、裸地は、表土の吹き付けなどにより在来植生の復元を図る。 <input type="checkbox"/> 濁りの発生が少ない工法を採用するなど、水質を保全する。 <input type="checkbox"/> 自然地形を活かした施設計画など、地形の改変面積や切土・盛土の土工量を極力少なくする。 <input type="checkbox"/> 海への土壌、土砂の過剰な流出を防止するため、地形の改変を極力少なくし、切土法面にはコンクリート擁壁、盛土法面にはブロック設置等を行う。 <input type="checkbox"/> 沿岸部では、護岸、岸壁、堤防の設置・補強によって、土壌、土砂の浸食、堆積を防ぐ。

貴重・希少生物等の生息・生育環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 貴重な生物の生息・生育地は保護区域に指定して、人の立入りも制限するなど、ゾーン分けを行う。 <input type="checkbox"/> 動物の繁殖期及び冬眠時期や渡り鳥の渡来時期、植物開花時期など、配慮対象とする貴重・希少生物の生息・生育条件に影響を与える時期の施工を控える。 <input type="checkbox"/> 貴重・希少生物の生息・生育地としての環境利用を考慮し、後背地との連続性を確保する。 <input type="checkbox"/> 周辺緑地や水辺環境との連続性を考慮した緑地整備を行うとともに、植樹のタイプに応じた適切な管理を行い、生物の生息・生育場所としての質の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 堤防・護岸には、巨石など多様な空隙構造をもつ材料を使用する。 <input type="checkbox"/> 護岸・防波堤の改良・整備にあたっては、魚巢ブロックや自然石の石組みにより自然環境や親水性を回復・確保する。 <input type="checkbox"/> 作業機械による周辺緑地等への立入や踏みつけに注意する。 <input type="checkbox"/> 立入防止フェンスやネット、道路擁壁などの侵入防止施設を設置する。 <input type="checkbox"/> 落葉は腐葉土化するなど、土壌に還元する。 <input type="checkbox"/> 人工光による影響を軽減するために、灯具の種類、設置数、位置、光色について検討する。 <input type="checkbox"/> 代替地の創造や移植を行う。 <input type="checkbox"/> 生物の生息・生育状況について、供用後のモニタリング調査を実施する。
外来生物対策	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 公園樹木、緑化植物は、公園の性格・特性にあった在来植物種を選定し、外来種を避ける。 <input type="checkbox"/> 物資の輸送の際には、車や荷物に付着した外来生物を拡散させないように注意する。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	
人と自然との触れ合いを考慮した施設構造の検討	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 緩傾斜護岸、階段護岸、自然石組護岸など、市民が利用しやすい形状の護岸を整備し、パブリックアクセスを確保する。 <input type="checkbox"/> 木杭・石組など、自然素材を活用した施設を設置する。 <input type="checkbox"/> 橋脚や護岸、コンクリート施設などの配置やデザインや形状、色彩を工夫する。 <input type="checkbox"/> 自然素材の導入や自然的構造物の設置を検討する。
環境への負荷の低減	
環境負荷の低減を考慮した計画	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 施工方法の工夫や破碎、焼却、脱水、乾燥などによって廃棄物の減量化を図る。 <input type="checkbox"/> 不法投棄を防止し、適正処分を徹底する。 <input type="checkbox"/> 解体作業が発生する場合は分別解体に努め、再資源化率の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 路床材や舗装骨材、枕木は、極力再生品を調達する。 <input type="checkbox"/> 熱帯木材型枠の使用を削減する。 <input type="checkbox"/> 残土の現場内及び他工事での活用、再資源化などによる再利用を推進する。 <input type="checkbox"/> 工程で発生した廃棄物の再使用、再利用を図る。 <input type="checkbox"/> 雨水利用、中水利用、燃料電池、再生可能エネルギー利用施設の導入など、既存のライフラインに依存しない仕組みを検討する。